

木枯が暗を誘つて

明日の不安に「時」を翔けると

べつと唾を吐いた

納屋の女は

バサ／＼と石炭イシガラをあほぎたてる

どす黒い焰が

餓と寒さに狂つて

どつと煤くれた看板に吹きつけた。

「坑夫大募集」——  
ハタラクヒトイッペントヒナス

## いつも通る道

山の椿の真赤な花が散る頃から

斜に貼られたあの「貸家札」

森の夕靄に抱かれて

一昨日もやつぱり首をかき上げて淋しそうだった

昨日も山茶花にかくれて

あの窓はひらかれぬまゝに暮れはてた

.....

散歩から歸つた私は口笛を吹いて何だかうれしかつた

スタンドのスウキツチをばちりと切つて空を仰いだ

今日あの窓が開いて居た！

山茶花のかげで歌聲が聞えた

「山のエンゼルが森の家にやつてきた」

私はいたい程輝く満天の星座を仰いで

子供らしい空想にふけつて思はずほゝゑんだ